

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 江川 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

##### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問紙調査

##### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

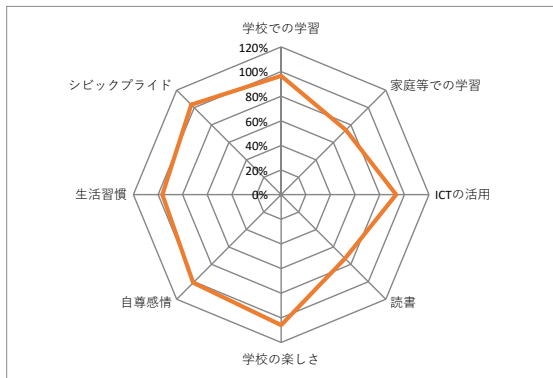
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	言葉の特徴や使い方に関する事項、話すこと・聞くこと、書くことに関する問題は全国平均を上回っているが、情報の扱い方や読むことに関しては苦手な児童が見られる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	言葉の特徴や使い方に関する事項	
	努力が必要な問題	情報の扱い方に関する事項	

算数	全体的な傾向や特徴など	数と計算、変化と関係に関する問題は全国平均を上回っているが、図形やデータの活用に関する問題は全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	数と計算、変化と関係	
	努力が必要な問題	図形、データの活用	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
・「学校に行くのは楽しいと思う」「友達関係に満足している」「自分には、よいところがあると思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」という質問に肯定的な回答が90%近くまたは90%以上という結果であった。今後も児童にとって学校が楽しいと思える環境づくりと学校全体で行っている「よいところ見つけ」を継続的に取り組んでいく。	
・読書に関する質問は全国平均よりも低い傾向にある。今後は休み時間の図書室利用の啓発や読書週間の取り組みの充実を図る。	

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

毎日朝学習で国語と算数の基礎基本の定着を図り、毎週水曜日にチャレンジタイムという補充学習の時間を設定している。今後も児童の学力定着や向上に向けて継続的に取り組んでいく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

児童が学習内容を復習し、また家庭学習を促すために宿題を毎日継続的に取り組ませている。また、読書については日頃の図書室の利用や読書週間での活動を図書委員会を中心に学校全体で取り組んでいく。